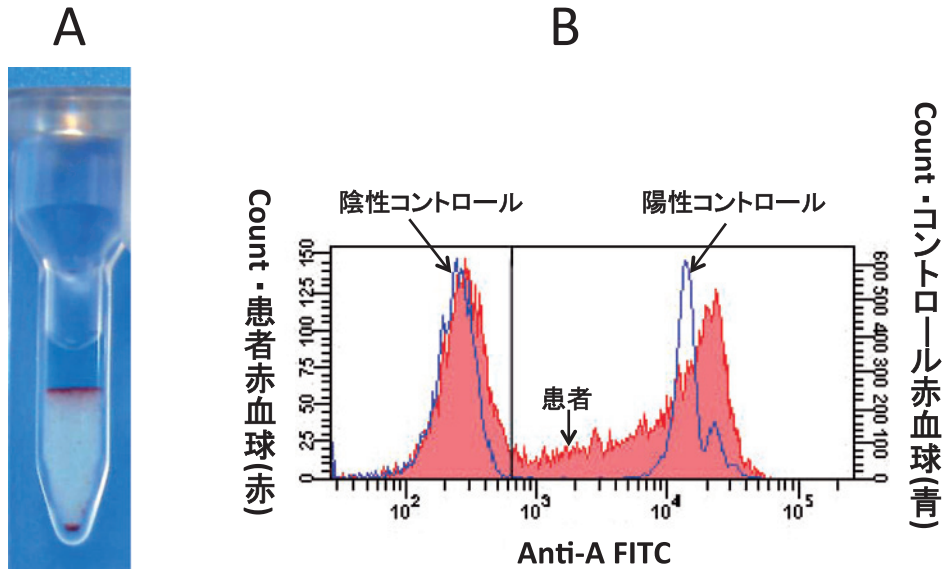


## 骨髓異形成症候群の病型変化に伴った A 抗原の減弱



### 抗Aとの反応

秋山 友子 坂巻 佳織 岸野 光司 進藤 聖子 大槻 郁子  
小林 美佳 小幡 隆 菅野 直子 小野崎文字 中木 陽子  
森 政樹 室井 一男

自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部

キーワード：ABO 血液型，抗原減弱，骨髓異形成症候群

40歳男性。2008年5月、骨髓異形成症候群(MDS)の不応性貧血(常核型)と診断。カラム凝集法によるABO血液型のオモテ検査抗A(4+)・抗B(0)、ウラ検査A<sub>1</sub>赤血球(0)・B赤血球(2+)よりA型と判定。初診時よりA型のRCC輸血(計94単位)を実施、2009年6月MDSの鉄芽球性貧血(RARS;染色体47,XY,+8)に変化、自然軽快し2009年7月以降無治療で経過観察。2013年1月MDS-RARS(染色体は47,XY,+8)と変化なく出血傾向に対しA型のPC輸血(計30単位)を実施。2013年1月オモテ検査で抗A(4+mf)と部

分凝集を呈し(図A)、ウラ検査はA<sub>1</sub>赤血球(0)、B赤血球(3+)。フローサイトメトリーでも抗A抗体陽性率56%の二峰性変化を認めた(図B)。その他の血液型抗原の減弱を認めず、A型糖転移酵素活性は512倍(対象512倍)と低下なし。その後も抗A抗体への部分凝集がみられている。疾患による血液型抗原減弱が知られており<sup>1)2)</sup>、本例でみられたA抗原の減弱はMDSの病型変化に伴った赤芽球の分化異常に関連する現象と考えられた。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

文献：1) 伊藤道博，山本浩子，橋本真一郎，他：経過中にA型，B型血球のキメラ状態を呈したAB型MDSの一例。日本輸血学会雑誌，45：245,1999。2) 難波宏美，藤原考記，金子 強，他：増悪時にE抗原及びc抗原の著しい減弱を認めた骨髓異形成症候群の1例。日本輸血細胞治療学会誌，59：813—818,2013。

〔受付日：2014年1月14日，受理日：2014年4月15日〕

## **DECREASED A ANTIGEN EXPRESSION ASSOCIATED WITH DISEASE ALTERATIONS IN MYELOYDYSPLATIC SYNDROME**

*Tomoko Akiyama, Kaori Sakamaki, Koji Kishino, Seiko Shindou, Ikuko Otsuki, Mika Kobayashi,  
Takashi Obata, Naoko Sugano, Fumiko Onozaki, Yoko Nakaki, Masaki Mori and Kazuo Muroi*

Division of Cell Transplantation and Transfusion, Jichi Medical University Hospital

**Keywords:**

ABO blood group, decreased antigen expression, myelodysplastic syndrome

---

©2014 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <http://www.jstmct.or.jp/jstmct/>